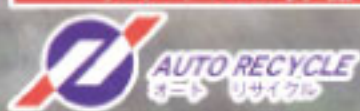


私達は常に環境を考え
未来を考え
明日を創造します。

リサイクル商品で地球にやさしい環境を創造する。



ナカヤマグループ



ISO14001 認証取得



ISO取得

今、緑の惑星“地球”は疲れています。

大気汚染や酸性雨などにより森がなくなり緑が消滅しつつあるのです。

未来へ向け環境保護と省資源について考えることはグローバルな課題となっています。

そして、環境と車社会についても同じことがいえます。

今求められているのは、リサイクルです。私たち「ナカシマグループ」は、未来の社会を考え、地域への貢献を図り、リサイクル部品の生産販売及び使用済み自動車の適正処理を通して地球に優しい環境を創る企業を目指します。

廃オイルの適正処理・LLC適正処理

土壌汚染・水質汚濁の原因である廃オイル・LLC類は丁寧に回収しなければなりません。

また浄化槽設備を充実させ、工場敷地外への流出防止に努め土壌汚染・水質汚濁の影響調査を実施するよう指導しています。



廃オイル回収作業

回収後は、適正引取業者に処理委託をおこない、引取業者証明書によってその状況把握しています。

廃オイル回収機

フロンガス回収破壊処理

カーエアコンが保有するフロンは大気放出されるとオゾン層を破壊し、地球温暖化に重大影響を与えます。フロン回収機による回収作業後、破壊することが必要です。再利用をする場合もありますが、当グループは、破壊処理を原則として取り組んでいます。

本年10月1日からは、フロン回収破壊法が完全施行され自動車オーナーは、自動車フロン券購入を通して、回収・運搬・破壊に要する費用負担が必要となりました。引取業者は、自動車フロン類管理表(マニフェスト)を5年間保管しなければなりません。



フロン回収作業

今後ともナカシマグループは、フロン回収破壊法を遵守して自動車フロン引取・破壊システムの構築・又は、稼働に貢献していきます。

フロンガス回収機

私たちオートリサイクルナカシマグループは適正処理を徹底し、地球環境への負荷の低減を目指します。



分離槽:

4層分離槽を設備し、オイル流失防止にも努めています。幅員(4箇所)・大分(2箇所)。



バッテリー:

特別産業廃棄物の廃バッテリーについても回収して、指定された業者へ引き渡しています。

廃車ガラ処理

廃車処理のプロセスは、廃車車両からどの部品が再利用できるかチェックを行い、再利用部品を取外し、部品洗浄等の作業の後、品質テストを行い、システムに商品登録します。

再利用機能部品には、品質保証書が添付しています。受注部品は、丁寧に梱包し発送します。部品取後の解体自動車は、エンジン、ミッション、座席シート、バッテリー、プラスチック、タイヤ類等を細部解体します。

取外部品は、材料毎に分別し処分業者に引渡すことで材料リサイクルの循環システムが形成されます。

その後のスクラップ車両は、プレス機にかけられ圧縮されシュレッダーダスト業者に引渡します。



3方向プレス
1日およそ140t(車にして約80台)、5分間に1台の速さで処理されます。



ニブラ 一日に80台の車両解体処理能力があります。



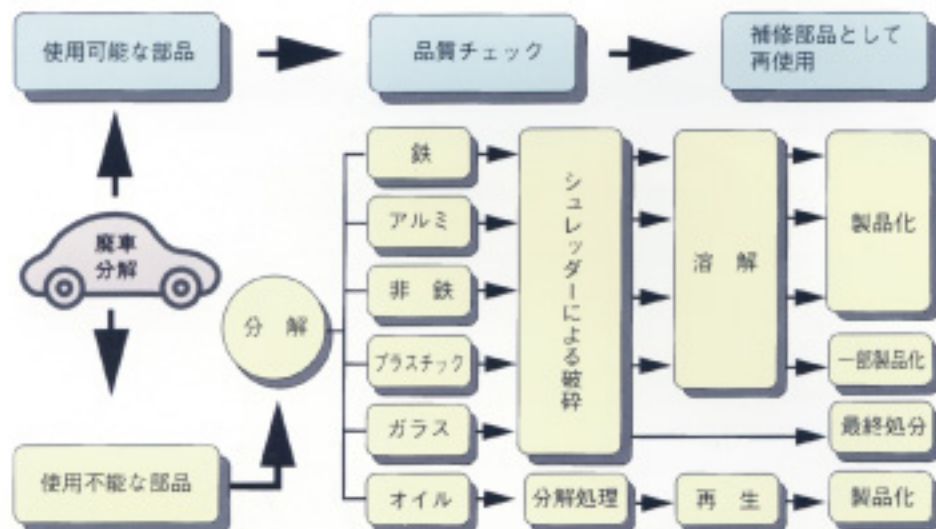
営業車

回収用トラック



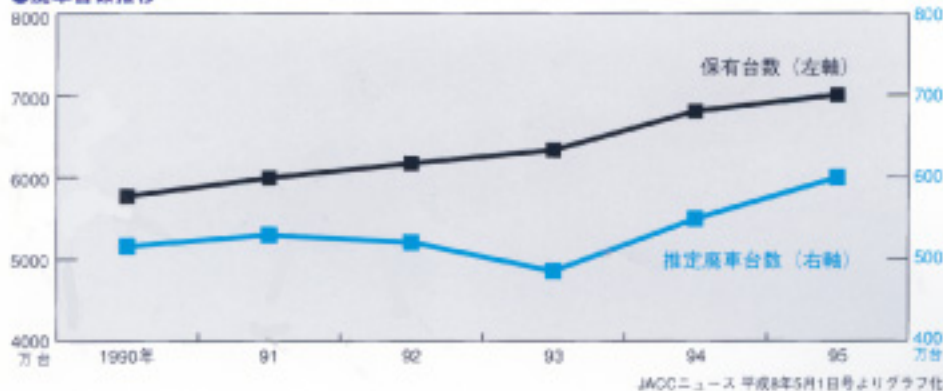


●自動車リサイクルの流れ



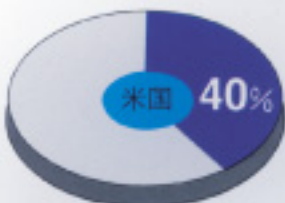
自動車の廃車は毎年約500万トン、日本全国で排出される廃棄物の量は毎年約7,000万トンであり、廃車をゴミとして換算した場合、全体の7%強にあたります。廃車によるゴミの増加を防ぐためには、まず第一に「使用可能な部品」を補修部品として再活用すること。第二にそのままでは使用できない部品類を分別・回収したうえで再び素材にして使うことが考えられます。その際、再資源化できずに残るのがシュレッダー・ダストと呼ばれるゴミであり、廃車500万トンのうち23%強ものダストがゴミとして最終処分されます。国内でのシュレッダー・ダスト処分場の不足から、このダスト処理が今後の課題となり、自動車メーカーにはダストの出ない、リサイクルしやすい素材を使った新車の開発に取り組むことが望まれています。

●廃車台数推移



●修理・車検用に供給される補修部品全体に占めるリサイクルパーツの比率

自動車修理のために供給される補修部品のマーケットにおけるリサイクル部品の使用率は、米国の40%に比べ日本では、わずか3%程度と低い数字です。自動車産業、消費者ともに認識をもっと高める必要があります。



ホリデーオート1994年11月10日号より

●廃車台数中NGPグループ回収車



●一台の廃車から再使用部品として取り外す部品数



